

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ
1	瑞龍寺	国宝・重要文化財(建造物)	高岡開町の祖前田利長の菩提を弔うために建てられた曹洞宗寺院。外様大名の菩提寺としては壮大過ぎるとされるその理由には、前田利常にとっては、自身を次期藩主へ抜擢してくれたことに対する並々ならぬ恩義があったことや、高岡の町民に長く利長の遺徳をしのばせ、併せて町の繁栄を授ける意図を託したものと考えられる。
2	前田利長墓所	国指定史跡	近世大名の個人墓所としては総面積約1万坪と、破格の規模を誇るものである。前田利常により造営され、瑞龍寺と墓所をつなぐ道路である八丁道と併せて整備された。ともに前田利長を偲ぶ意図が込められている。
3	五福町神明社本殿	市指定文化財(建造物)	慶安5年(1652)前田利常によって前田利長墓所に建てられた鎮守堂の遺構で、瑞龍寺の造営と並行するものであったことが明らかとなっている。この場所へは明治初年に移築された。
4	大手町神明社拝殿	市指定文化財(建造物)	五福町神明社本殿と同じく前田利長墓所に建てられた拝殿であり、明治維新による廃仏毀釈と神仏分離の動きを受けて分割して移築されたものである。
5	高岡城跡	国指定史跡	築城技術が高度に発達した近世初頭の縄張りをほぼ完全な姿で留めている城跡である。廃城となった後も、高岡城本丸の殿閣撤去跡に新しく米塩の倉庫が建てられたことで城跡の荒廃を防ぐとともに、城下町から商工の町に転向する第一歩を歩んだ。
6	前田利長公御親書	市指定文化財(古文書)	高岡城の築城と城下町の建設に先立ち、その資材となる木材集散地として町立てした木町の成立に際し利長の厚い保護のあったことを示す史料であり、木町は、高岡の玄関口として重要な役割を果たしてきた。
7	高岡御車山	重要有形民俗文化財	高岡御車山は7基の山車で構成され、形式は二番町の車輪が2輪であることを除き、ほぼ酷似している。増減を許すことなく現代まで7基であり、高岡金工漆工の粋を集めた総作品として高い美術工芸的価値を有するものである。
8	高岡御車山祭の御車山行事	重要無形民俗文化財	お祭りを盛大に行うのは加賀藩の政策であり、百姓町民にとっては神様に感謝祈念を込める行事であるとともに普段の儉約から解放される不満緩和の安全弁として機能した。町民自身が楽しむために自らの富を投資し、地域経済を動かしていたことが分かる代表的な行事である。
9	与四兵衛頭彰碑(弥真進大人命旧跡)	—	津幡屋与四兵衛は、御車山と類似の山を作った近郊の町との騒動の際に、御車山の由緒を死守しようとした義人として山町の人々から崇められている。毎年4月3日に祭祀が行われている。
10	明和八年製高岡町図	市指定文化財(古文書)	高岡の町図としては、現存する最古の部類の町図であり、明和年間の高岡町の街区、用水の状況、高岡城跡などが明記されている。所在地を明確にするとともに、米納地子地も記載されていることから、当時の農業生産力を知ることにも出来る重要な史料である。
11	山町筋重要伝統的建造物群保存地区	重要伝統的建造物群保存地区	重厚かつ繊細な意匠を持つ土蔵造りの伝統的建造物が立ち並ぶ地区であり、近世初頭には米商会所が置かれ、綿市場の拠点として高岡の経済的な発展に大きく貢献した。高岡御車山を所有・継承していることから「山町」と呼ばれている。
12	菅野家住宅	重要文化財(建造物)	菅野家住宅は、質の高い伝統的な町家が多く残る山町筋の建物の中でも、大規模で質の高いものとして評価を受けている。高岡政財界の中心的な存在として財を築き、明治33年の大火にあっても直後に再建されるなど、高岡の隆盛を物語る土蔵造り建物の代表格である。

13	筏井家住宅	県指定文化財 (建造物)	筏井家住宅は、在来の町家にみられる伝統的技法を踏襲しながらも、塗壁による防火構造、洋風の構造・意匠を導入した質の高い建造物として貴重なものである。代々、綿糸などの卸商を営んでいた商家であり、山町の発展に寄与してきた。
14	土蔵造りのまち資料館 (旧室崎家住宅)	市指定文化財 (建造物)	旧室崎家住宅は、土蔵造りの大規模な町家の例であり、質が高く、背後の土蔵や庭など、屋敷の様子も旧状をよく留めている。もとは綿糸や綿布の卸商を営んでおり、今では資料館として公開されている。
15	金屋町重要伝統的建造物 群保存地区	重要伝統的建 造物群保存地 区	金屋町は、高岡開町に際し前田利長が鋳物師を招き、鋳物づくりを行わせたことに始まる鋳物師町である。装飾品や美術工芸品として銅鋳物が作られ、人々の多様なニーズを研究し、その需要に基づき努力を続けたことで、一大生産地としての発展を遂げた。
16	仁安の御綸旨	市指定文化財 (古文書)	鋳物師に対して全国に鍋・釜・鍬・鋤を販売することを命じ、そのため諸役を免除し全国通行の自由を保証した御綸旨であり、この御綸旨を活かして鋳物業に従事してきたことが窺える。
17	前田利長書状	市指定文化財 (古文書)	前田利長が高岡へ居城を移す際に、側近に命じた事項が記された史料であり、金屋町の発祥を示すだけでなく、町割りや武家地の屋敷割と同じ頃に行われていることを示しており、城下における金屋町の高い位置付けを指摘できる重要なものである。
18	有磯正八幡宮 (本殿・釣殿・拝殿及び幣殿)	登録文化財 (建造物)	金屋の氏神として、石凝姥命を祀っている。今も鋳物師たちの信仰を集めるものとして、「鍋宮様」とも呼ばれ、年に一度「御印祭」を行っている。祭には、前田利長の遺徳を偲ぶとともに、長く続いてきた鋳物業への感謝の意も含まれる。
19	銅造阿弥陀如来坐像	市指定文化財 (彫刻)	高岡大仏として市民に親しまれている銅製大仏であるが、元は木造であった。途中、資金難により銅製大仏での建立が中断するも、高岡銅器職人の献身的な動きと、市民の浄財により開眼供養に至った姿には、町民の町として発展した誇りが垣間見える。
20	高岡鋳物の製作用具及び 製品	登録有形民俗 文化財	金屋町を中心に、江戸時代以来行われてきた鋳物製作に用いられた用具類とその製品を収集したものであり、高岡鋳物の製作技法の変遷を良く示す多様な用具が収集されており、鋳物生産の実態を示す貴重な史料である。
21	御印祭	—	有磯正八幡宮の神事であり、前田利長の遺徳を偲ぶための祭である。前夜祭には「弥栄節」と呼ばれる作業歌に合わせて町流しを行うなど、今でも引き継がれて行われている。
22	旧南部鋳造所キュポラ及 び煙突	登録文化財 (建造物)	高岡の鋳物技術は、木製のふいご「たたら」を踏んで溶鉄や溶銅を得ていた手法から、新式溶鋸炉で鋳造する手法へ変遷していった。この建造物は、金屋町の近代化の歴史を示す遺構として貴重である。
23	梵鐘龍頭木型	市指定有形民 俗文化財	梵鐘を鐘樓の梁に吊るすために上蓋にしつらえた龍の形状の環状部を指し、戸出西部金屋に代々伝わっている。これは、戸出西部金屋に鋳物業が盛行したことを証明する資料ともなるものである。
24	戸出御旅屋の門	市指定文化財 (建造物)	前田利常により建てられ、御旅屋として主屋と3棟の土蔵棟で構成されていたと伝えられている。建物は明治に一部倒壊され、門だけが残されているが、江戸時代初期の御旅屋の面影を残すものとして貴重である。
25	勝興寺	重要文化財 (建造物)	勝興寺は、戦国期には越中における一向一揆の拠点寺として機能してきた。近世には本願寺や加賀前田家とも関係を強め、藩政期を通して門前地を寺内町として支配下に置いていた。寺内町が舟運業で賑わいを見せる中でも核としてその存在を示し、現在でも寺内町・港と一体となった景観的・経済社会的なつながりを伝えるものとして貴重である。

26	伏木港（伏木浦）	—	北前船（バイ船）の中継地で、近世・近代にいたるまで盛んに交易が行われ、日本海沿岸の重要な港湾施設として機能してきた。
27	伏木北前船資料館 （旧秋元家住宅）	市指定文化財 （建造物）	秋元家は、北前船の交易により繁栄した伏木地区にあり、当初は小宿（船主や水夫等の宿泊施設）として、時代が下るにつれて廻船問屋として繁盛した。明治期の廻船問屋の屋敷や建物の様子をよく留める貴重な歴史建造物として一般公開されている。
28	棚田家住宅	登録文化財 （建造物）	棚田家住宅は、主屋、寄付待合、水屋、茶室及び三棟の土蔵で構成される建物群で伏木が北前船交易によって繁栄していたことを物語る廻船問屋の建造物である。
29	能松家住宅	登録文化財 （建造物）	吉久は、承応4年（1655）に「吉久御収納蔵」と呼ばれる米蔵が建てられ発展を遂げた村であり、能松家住宅はその吉久地区のほぼ中央にある旧家である。江戸時代以来、米商を営み、財を成した。
30	有藤家住宅	登録文化財 （建造物）	有藤家住宅は吉久の西側に位置しており、建設当初の形式をよく保持している町家として貴重である。明治期には石灰俵編みと農業を生業としていた旧家である。
31	高岡商工会議所伏木支所	登録文化財 （建造物）	高岡商工会議所伏木支所は、明治43年（1910）に伏木銀行として建てられた土蔵造りの建造物である。土蔵造りに洋風の意匠をふんだんに採り入れた銀行建築となっており、伏木みなと町の繁栄と近代化を象徴する代表的な建造物である。
32	伏木気象資料館 （旧伏木側候所庁舎・測風塔）	登録文化財 （建造物）	伏木の廻船問屋に生まれた大商人「藤井能三」によって、伏木港を航行する船舶の安全のための天候観測施設として建てられた。藤井能三は伏木地区、ひいては高岡の経済発展に尽力した者であり、当施設は全国初の私立測候所であるとともに、伏木港の近代化を物語るものとして貴重である。
33	丸谷家住宅	登録文化財 （建造物）	吉久地区は「御蔵」を中心に町並みが築かれた地区である。丸谷家住宅は「米商」「蔵仲間」として有力な家の一つであった旧津和野家住宅を買い取ったもので、現在でも明治期の古い形態を良く残し、表構えも良好に保たれている貴重な建物である。
34	佐野家住宅	登録文化財 （建造物）	佐野家住宅はかつて高岡米穀取引所の仲買人組合長として活躍した「菅池貞次郎」が建設したものである。重厚な土蔵造りでありながら洋間や上げ下げ窓などに洋風要素を採り入れた姿には、町の発展に貢献してきた歴史を感じさせる。
35	清都酒造場	登録文化財 （建造物）	清都酒造場は、製造商品名「勝駒」の木製看板を主屋板庇に乗せ、現在も造り酒屋を営み続けている老舗である。明治33年（1900）の高岡大火以前の貴重な町家建築として酒屋らしい店構えを見せており、高岡の歴史を味わうことが出来る。
36	越中福岡の菅笠製作技術	重要無形民俗 文化財	加賀前田家5代当主前田綱紀が奨励したことから発展し、今に伝える越中福岡の菅笠製作技術。菅草の栽培から出荷までの全工程が一貫した生産体系で維持されている例は国内で唯一とも言え、当初の生産・製作形態を保ちながら継承する姿はまさに、『一人、技、心一』を伝えている。
37	菅笠問屋の町並み	— （景観形成重点区域）	福岡の菅笠は江戸時代から加賀笠として広く知られるようになり、一大生産地として全国シェアの9割以上を占めるほどとなった。旧北陸街道沿いに伝統的な町並みが良く残っており、菅笠生産による賑わいを物語っている。